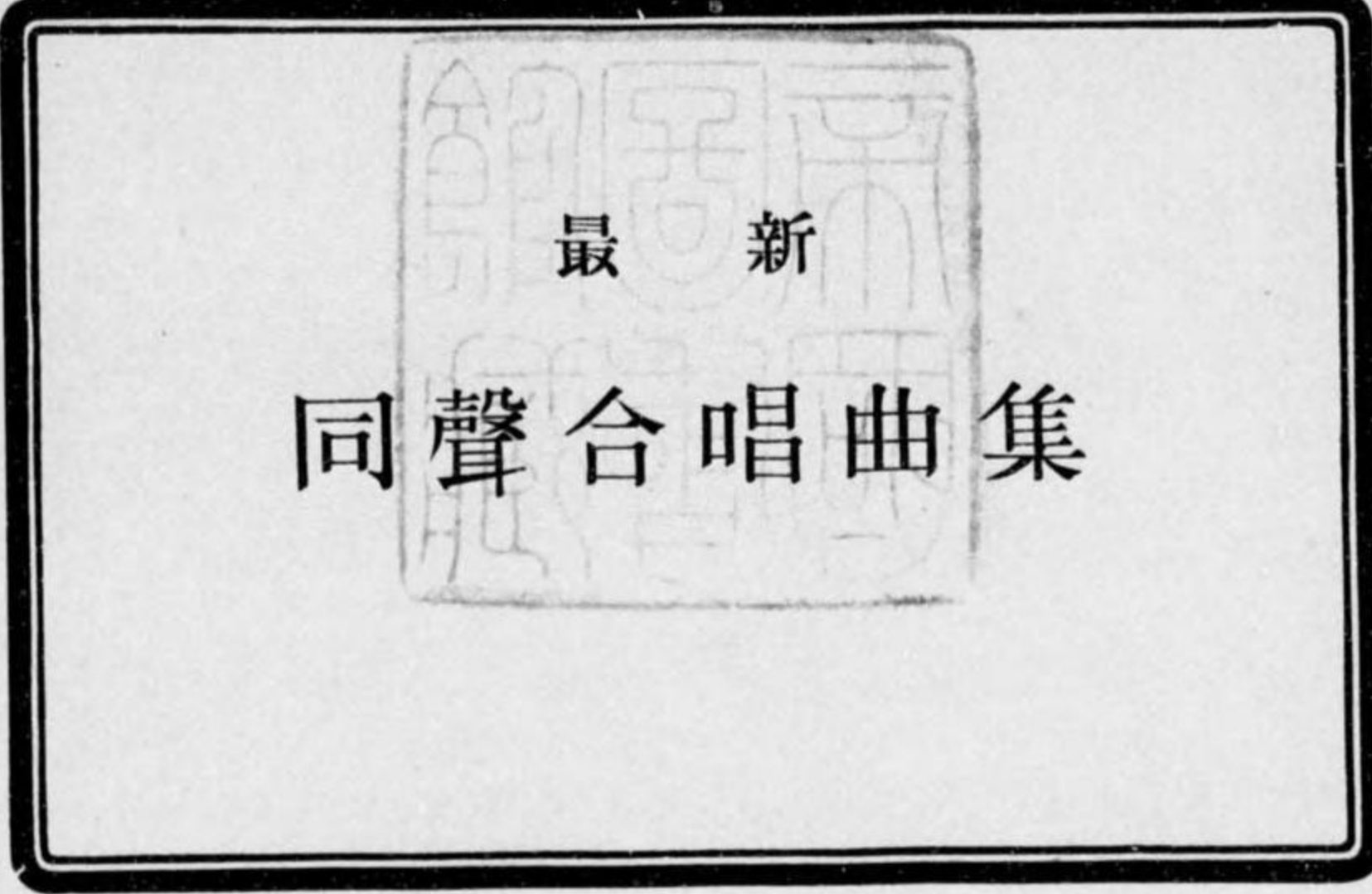


特270  
499



月 夜

Andante.

(Peter Ritter)

つ ち き く は さ い ふ で か り を か  
つ ち き く は さ い ふ で か り を か

の う や た か く し ひ び く ふ  
の う や た か く し ひ び く ふ

え の ね む ね に な が る る  
え の ね む ね に な が る る

聖の御代

(Ave Verum Corpus)

(Mozart)

Andante sostenuto.

き し を う つ は  
キ ヤ フ ク ハ

め ぐ み の な み か あ ま ざ か る ひ  
メ イ ツ ノ カ ゼ カ ウ ミ コ エ シ ハ

な に も お ほ き み の  
ナ マ デ オ ホ ヤ ミ ノ

(男聲合唱ノ場合ニハ一音乃至一半音下降セシムルヲ便利トス)

めぐみ たふと ああた たへ  
ミ イ ツ カ シ コ ア ア タ タ ヘ

をろが めく にさかえ たみな  
ヲロガ ノ ト ッ ク ニ ノ ヒ ト ビ \*

こみほ きうたに きはし  
トモ ク ニ ブリア フ(サ) グ ヨ

\* (男聲合唱ノ場合ニハ小音符ヲ採用スルヲ便利トス)

やか まぜ あかろく みづ きよ ー ー く  
カ ゼ カ ロ ク ア ノ ア ハ ー キ ク

に はひ の もと あアあ  
ニ ハ ヒ ノ モ ト アア

ー ー さちア ル ミヨ  
ア ー ー さちア ル ミヨ  
ア ー ー さちア ル ミヨ  
あ ー ー さちア ル ミヨ  
れ ー ー し ヤ  
れ ー ー し ヤ  
れ ー ー し ヤ

(本曲ノ歌詞ハ臨時ニ一章或ハ二章ヲ用フ)

二 暗をおかして 今日も行きぬ

風薫る夜に 眼閉ぢつ

枝のさゆらぎ われに語る

「ここに安息あり 來れわが子」。

三 わが面うちぬ 風は寒く

袖をはらひて 夜はふけ行く

枝のさやぎに 尙も聲あり

「ここに安息あり 來れわが子」。

○富士山

犬童球溪

仰ぎ見よや 富士の神山

白雲身に装ひて面は白雪

嗚呼玲瓏 嗚呼崇高

嗚呼秀麗 嗚呼壯嚴

何をか吾等に教へ示す

見よ／＼富士の高嶺

見よ／＼神の御山

仰ぎみよや 富士の神山

見よ／＼神の御山

見よ／＼神の御山

仰げや富士の神山

白雲身に装ひて面は白雪

嗚呼玲瓏 嗚呼崇高

嗚呼秀麗 嗚呼壯嚴

何をか吾等に教へ示す

見よ／＼富士の高嶺

見よ／＼神の御山。

○月下の人魚

八波則吉

月澄む海原 夜ただ我が泣く

なまじ此の面 人に似ざらば

ここの魚類 なべて我が友

友どち群れゐて 我が世を経なまし

慕はし船人 あはれ船人

懐かし船歌 あはれ船歌

○莖

脇 太一

咲きほこれる 野べのすみれ

ゆかしゆかし すみれすみれ

春風にかほる やさし色香

萌ゆるすがた やさし

花すみれ 摘めば色もゆかし

むらさき 天の匂ひ

花すみれ あはれすみれ

いとしき姿 花の小人やさし

花すみれ 野べのすみれ

永久に咲けよ ゆかしすみれ

いとすがた やさし色香

永久に匂へ すみれ。

○春の宵

脇 太一

(甲) 春の夜のおぼろ月 櫻かざしかざし

胡蝶と舞へば あ人も蝶もかすむ。

(乙) あな樂しき春の宵 花はホロ／＼散る

いざや友若草の野に出でて歌ひなん。

(丙) 花に眠る小鳥さめて 調よく歌へ

歌へば灯影も ちららゆらめく。

(丙) 水にゆら／＼灯影うつり

青柳の絲を吹く

のどけき春風 夢に似てやはら。

○旭

犬童球溪

一 仰ぎ見よや東のみ空 昇る旭を

萬象めざめて 森羅蘇生す。

二 仰ぎ見よや東のみ山 昇る旭を

乾坤回りにて 天地明らか。

○雲雀

犬童球溪

人知らぬ雲の上の

天津神に侍る

天使の歌姫か

影は虚空に隠れ 聲は大地に落つる

精神崇高き雲雀

あはれ あはれや。

秋景色

犬童球溪

一 吹く風も心地よく 小田の穂波立たせ

村人の喜びを雀近く踊り 鳥遠く歌ふ。

二 山々は紅葉して 綾や錦織れば

山柿も色づきて眞玉峰に晒し

三 茸狩りて歸るさの 人の群れの歌か

一叢の茂りたる森を越えて

うれし／＼秋のながめ うれしや。

しらべいと妙に

○月夜

脇 太一

月は出でたり

丘の上たかく

千草吹く風

あ さや／＼しろし

ひびく笛の音

胸に流るる。

○聖の御代

犬童球溪

一 岸をうつは恵の波か

天さがる鄙にも大君の惠尊と

あゝ讃へをろがめ

國榮え民和み頌歌賑はし

山青く水清き國は日の本

あゝ幸ある御代 うれしや。

二 木々を吹くは御稜威の風か

海越えし涯まで大君の御稜威かしこ

あゝ讃へをろがめ

外國の人々も國體仰ぐよ

風軽く雨淡き國は日の本

あゝ幸ある御代 たのしや。

○騎手の歌

犬童球溪

一 來れ友よ騎て駈けん 遠くつづく暇手を

手綱ゆるく鞭を執れば 走る駒も勇むよ

走れく砂を蹴立てて

駈けよく蹄もかろく。

二 行手遠く坂路峻し

人生の行路も斯くこそ

汝れを頼む己が此の身 心せよや我駒  
走れく砂を蹴立てて

駈けよく蹄もかろく。

○祖國獨逸

犬童球溪

一 更けたる眞夜中 荒べる風の

絶間にひびくは 祖國の歌調

我友勇め援助の軍勢は 間近に來れり

守れや我友矢玉は盡くとも

刀は折るとも

守りに守れ

此の岩

二 守衛の兵士 勇みに勇み

援助の軍勢の 來るを待てば

歌こゑひびく祖國の歌調の

祖國の歌調の

勇めや我友山なす屍も

川なす血汐も

恐れず守れ 此城を。

○おくつき

犬童球溪

一 逝きし者のいこふところ

苔のみ墓訪ね來れば

小草青く小徑を埋め

落葉深く土を覆ふ。

二 落葉掃きて苔を拂ひ

眼閉ちて前に伏せば

眠る人の面わ見えて

熱き涙頬を傳ふ。

○夜の歌

犬童球溪

一 萬籟しづけく 夜は更けて

疲れしもの皆 今ぞ眠る。

二 されども天地は 音もたて

さだめの歩みは つゆもかへず。

共益ボーカーピース

- 501 流 浪 の 民 (同聲三部合唱曲) シューマン原作 石倉小三郎譯歌 .20  
 515 歌劇 ローレライ (同聲、混聲用合唱曲) メンテルスゾーン原作 吉丸一昌作歌 .20  
 516 乙女のまごひ (女聲三部合唱曲) 本居長世作 犬童球溪作歌 .20  
 517 歡 迎 の 歌 (女聲三部合唱曲) モツアールト原作 井上武士作歌 .30  
 (グローリア)  
 518 祝 歌 (單聲、混聲共用合唱曲) ソグネル原作 犬童球溪作歌 .30  
 (タンホイセル大行進合唱曲)  
 519 紡 ぎ の 歌 (女聲三部合唱曲) ソグネル原作 近藤朔風作歌 .30  
 (さまよへる和蘭人より)  
 520 た そ が れ (女聲三部合唱曲) アプト原作 池尻景順作歌 .20  
 521 春 雨 (女聲二部合唱曲) 澤田柳吉作 相馬御風作歌 .20  
 522 歡 喜 の 歌 (單聲、混聲共用合唱曲) グルツク原作 犬童球溪作歌 .30  
 (オルフォイッより)  
 525 森 の 合 唱 (獨唱聯唱及合唱曲) メンテルスゾーン原作 同 .30  
 (眞夏の夜の夢より)  
 526 ア ル セ ス テ (獨唱及合唱曲) グルツク原作 同 .30  
 527 眠 れ 静 か に (獨唱及合唱曲) シューマン原作 石倉小三郎譯歌 .30  
 (樂園ミペーリーより)
- 551 清 流 (同聲三部合唱曲) プラームス原作 犬童球溪作歌 .15  
 552 秋 の 歡 び (同聲、混聲共用 四部合唱曲) メンテルスゾーン原作 同 .15  
 553 秋 夜 (同聲二部合唱曲) 同 脇 太一作歌 .15  
 554 埠 頭 の 別 れ ( 同 ) ベートーベン原作 犬童球溪作歌 .15  
 555 別 れ (同聲三部合唱曲) クルシュマン原作 脇 太一作歌 .15
- 801 春 興 (單聲三部合唱曲) モツインギー原作 矢口莫愁作歌 .50  
 (絃樂伴奏付)  
 802 歡 迎 の 歌 (混聲合唱曲) モザート原作 井上武士作歌 .50  
 (グローリア)

最新中等唱歌曲集 (伴奏付) 若狭萬次郎編 1.30



發行所

東京市芝區松本町四十四番地  
 合資 共益商社書店  
 電話三田(45)四〇五六・四〇五七  
 振替東京一五八〇

製 復 許 不

印刷所 共益商社書店印刷部

發行所 東京市芝區松本町四十四番地  
 合資 共益商社書店  
 代表者 白井保男

編者 若狭萬次郎

定價金壹圓五拾錢

昭和四年七月二十一日印刷  
 昭和四年七月二十四日發行